



アドホック チャットおよび常設チャットの 設定

- [グループ チャットルームの概要](#) (1 ページ)
- [グループ チャットの要件](#) (2 ページ)
- [グループ チャットおよび常設チャットのタスク フロー](#) (3 ページ)
- [グループ チャットと持続チャットのインタラクションと制限](#) (8 ページ)
- [常設チャットの例 \(高可用性なし\)](#) (12 ページ)
- [IM and Presence での常設チャットの境界](#) (13 ページ)

グループ チャットルームの概要

グループチャットとは、3人以上のユーザ間でのインスタントメッセージングセッションです。IM and Presence Service は、アドホック チャット ルームおよび常設チャット ルームをサポートします。インスタントメッセージングを有効にすると、アドホック チャット ルームのサポートがデフォルトで有効になります。ただし、常設チャットルームのサポートについては、システムを設定する必要があります。

アドホック チャット ルーム

アドホック チャット ルームは、1人のユーザがチャット ルームに接続されている限り存続するチャットセッションであり、最後のユーザがルームを離れると、システムから削除されます。アドホックチャットルームは、最後のユーザがルームを離れると、システムから削除されます。インスタントメッセージの会話の記録は永続的に維持されることはありません。インスタントメッセージングを有効にすると、アドホック チャット ルームはデフォルトで有効化されます。

アドホックチャットルームは、デフォルトではパブリックルームですが、プライベートに再設定することもできます。ただし、ユーザがパブリックまたはプライベートのアドホックルームに参加する方法は、使用中の XMPP クライアントのタイプによって異なります。

- 任意のアドホックチャットルーム (パブリックまたはプライベート) に参加するには、Cisco Jabber ユーザを招待する必要があります。

- サードパーティ製 XMPP クライアントのユーザは、任意のアドホックチャットルーム (パブリックまたはプライベート) に参加するために招待することができます。または、会議室ディスカバリサービスを介して参加するようにパブリック専用のアドホックルームを検索することもできます。

常設チャット ルーム

常設チャットルームは、すべてのユーザがルームを離れても存続するグループチャットセッションで、アドホックグループチャットセッションと違い、終了することはありません。ユーザは、ディスカッションを続行するために、時間が経過しても同じ会議室に戻ることを求められます。

常設チャットルームの目的は、ユーザが後で常設チャットルームに戻って、協力し合い、特定のトピックに関する知識を共有したり、そのトピックに関する発言のアーカイブを検索したり（この機能が IM and Presence Service で有効になっている場合）、そのトピックのディスカッションに参加したりできるようにすることです。

常設チャットルームにはシステムの設定が必要です。また、常設チャットでは、外部データベースを導入する必要があります。

常設チャットルームは、IOS クライアントおよび Android クライアントの両方を含め、デスクトップおよびモバイル Jabber クライアントの両方でサポートされています。モバイルクライアントの場合は、最低でも Jabber リリース 12.1 (0) を実行している必要があります。

グループチャットの要件

アドホック チャットの要件

アドホックチャットルームを展開する場合は、インスタントメッセージングが有効になっていることを確認してください。詳細については、[インスタントメッセージの有効化](#)を参照してください。

常設チャットの要件

常設チャット ルームを展開している場合:

- インスタントメッセージングが有効になっていることを確認してください。詳細については、[インスタントメッセージの有効化](#)を参照してください。
- 外部データベースを導入する必要があります。データベースのセットアップおよびサポート情報については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.html>の *IM and Presence* データベースセットアップガイドを参照してください。
- 常設チャットにハイ アベイラビリティを導入するかどうかを決定します。この導入タイプにより、永続的なチャットルームに冗長性およびフェールオーバーが追加されます。ただし、外部データベースの要件は、ハイ アベイラビリティを持たない機能を導入した場合と若干異なります。

- 常設チャットの展開には、少なくとも15,000 ユーザ OVA を導入することを推奨します。

グループチャットおよび常設チャットのタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	グループチャットシステム管理の設定 (4 ページ)	システム管理者を追加して、常設チャットシステムを管理します。
Step 2	チャットルームの設定 (4 ページ)	常設チャットルームの基本設定を行います。オプションとして、常設チャットを有効にします。
Step 3	Cisco XCP Text Conference Manager の再起動 (6 ページ)	常設チャットを導入する場合は、Cisco XCP Text Conference Manager サービスが実行されていることを確認します。
Step 4	常設チャット用の外部データベースの設定 (6 ページ)	常設チャットルームを使用するには、各ノードに一意の外部データベースインスタンスを設定する必要があります。 (注) 常設チャットにハイアベイラビリティを導入している場合は、ハイアベイラビリティの展開時のデータベース要件が若干異なるため、この章の残りのタスクはスキップすることができます。
Step 5	外部データベース接続の追加 (7 ページ)	IM and Presence Serviceで、外部データベースへの接続をセットアップします。
Step 6	常設チャット用のMSSQLデータベースのWindows 認証 (7 ページ)	MSSQL 外部データベースへの接続を設定するときに、Windows 認証を有効にすることができます。
Step 7	1つの外部データベースから別のデータベースへの永続的なチャットルームの移行	IM and Presence サービスでは、すべての永続的なチャットルームとグループを既存の外部データベースから同じデータベースタイプまたは異なるタイプの別のサーバに移行します。外部データベースの移行を実行する方法の詳細については、『Cisco IM and Presence データベースセットアップガイド 12.5 (1) SU2 リリース』の「1つの外

	コマンドまたはアクション	目的
		部データベースからの永続的なチャットルームへの移行」の項を参照してください。

グループ チャット システム管理の設定

システム管理者を追加して、常設チャット システムを管理します。

手順

-
- Step 1** [メッセンジング (Messaging)] > [グループ チャット システムの管理者 (Group Chat System Administrators)] を選択します。
- Step 2** [Enable Group Chat System Administrators (グループ チャット システムの管理者を有効にする)] のチェックボックスをオンにします。
- 設定が有効化または無効化する場合、Cisco XCP Routerを再起動する必要があります。システム管理者の設定を有効に設定すると、システム管理者を動的に追加できます。
- Step 3** [新規追加] をクリックします。
- Step 4** IM アドレスを入力します。
- 例
- IM アドレスは name@domain の形式である必要があります。
- Step 5** ニックネームおよび説明を入力します。
- Step 6** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[チャットルームの設定 \(4 ページ\)](#)

チャットルームの設定

ルームメンバーおよび収容人数の設定などの基本的なチャットルームの設定と、ルームあたりのユーザの最大人数の設定を行います。

必要に応じて、常設チャットを有効にするチェックボックスをオンにして、常設チャットを有効にすることもできます。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理から、**メッセージング > グループチャットおよび常設チャット**を選択します。
- Step 2** **プライマリグループチャットサーバのエイリアスをシステムで自動的に管理する**チェックボックスをオンあるいはオフにして、システムがチャットノードのエイリアスを管理するかどうかを設定します。
- オン: システムは、チャットノードエイリアスを自動的に割り当てます。これはデフォルト値です。
 - オフ: 管理者がチャットノードのエイリアスを割り当てることができます。
- Step 3** すべての参加者がルームから退室した後もチャットルームが存続し続けるようにするには、**常設チャットを有効にする**チェックボックスをオンにします。
- (注) これはクラスタ全体の設定です。永続的なチャットがクラスタ内のいずれかのノードで有効になっている場合、任意のクラスタ内のクライアントは、ノード上のテキスト会議インスタンスとそのノードでホストされているチャットルームを検出できます。
- リモートクラスタ上のユーザは、そのリモートクラスタで永続的なチャットが有効になっていなくても、ローカルクラスタ上の **Text Conference** インスタンスおよびチャットルームを検出することができます。
- Step 4** 常設チャットを有効にするように選択した場合は、それぞれの値を以下のフィールドに設定します。
- 許可されるパーシステントチャットルームの最大数 (Maximum number of persistent chat rooms allowed)
 - データベース接続数
 - データベース接続のハートビート間隔 (秒) (Database connection heartbeat interval (seconds))
 - パーシステントチャットルームのタイムアウト値 (分) (Timeout value for persistent chat rooms (minutes))
- (注) シスコのサポート担当者に連絡せずに、**データベース接続のハートビート間隔値**をゼロに設定しないでください。ハートビート間隔は、通常、ファイアウォールを介して接続を開いたままにするのに使用されます。
- Step 5** ルームの設定で、ルームの最大数を割り当てます。
- Step 6** **グループチャットおよび常設チャットの設定**ウィンドウで、残りの設定を入力します。フィールドとその設定の詳細については、**オンラインヘルプ**を参照してください。
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[Cisco XCP Text Conference Manager の再起動 \(6 ページ\)](#)

Cisco XCP Text Conference Manager の再起動

チャットの設定を編集したり、チャットノードに複数のエイリアスを追加している場合は、**Cisco XCP Text Conference Manager** サービスを再起動します。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified IM and Presence Serviceabilityで、ツール > コントロールセンター - 機能サービスを選択します。
 - Step 2** サーバドロップダウンリストから、IM and Presence ノードを選択して、移動をクリックします
 - Step 3** IM and Presence Service セクションで、Cisco XCP Text Conference Manager オプション ボタンをクリックして、起動 あるいは 再起動をクリックします。
 - Step 4** リスタートに時間がかかることを示すメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
 - Step 5** (任意) サービスが完全に再起動されたことを確認するには、[更新 (Refresh)] をクリックします。
-

次のタスク

常設チャットのハイアベイラビリティを導入する場合は、[常設チャットのハイアベイラビリティのタスクフロー](#)の章に進みます。

それ以外の場合は、[常設チャット用の外部データベースの設定 \(6 ページ\)](#)。

常設チャット用の外部データベースの設定



- (注) このトピックでは、ハイアベイラビリティを備えていない常設チャットについて説明します。常設チャットに高可用性を展開する場合は、外部データベースの設定情報ではなく、該当する章を参照してください。

常設チャットルームを設定する場合は、常設チャットルームをホストするノードごとに、個別の外部データベースインスタンスを設定する必要があります。また、次の点に注意してください。

- 永続的なチャットが有効な場合は、外部データベースを Text Conference Manager サービスに関連付ける必要があります。また、データベースがアクティブで到達可能である必要があります。そうでない場合は、Text Conference Manager は起動しません。
- 常設チャット ログ出力に外部データベースを使用する場合は、データベースが情報量処理するのに十分な容量があることを確認します。チャットルームのすべてのメッセージのアーカイブはオプションであり、ノードのトラフィックが増え、外部データベースのディスク領域が消費されることとなります。

- 外部データベースのクリーンアップユーティリティを使用して、データベースサイズを監視するジョブを設定し、期限切れのレコードは自動的に削除します。
- 外部データベースへの接続数を設定する前に、書き込む IM の数およびそのトラフィック総量を考慮します。設定する接続数によって、システムを拡張できます。UI のデフォルト設定は、ほとんどのインストールに適していますが、特定の展開にパラメータを適応させることも可能です。

外部データベースの設定方法については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-presence/products-installation-and-configuration-guides-list.html>の *IM and Presence* サービスの外部データベースの設定ガイドを参照してください。

次のタスク

[外部データベース接続の追加 \(7 ページ\)](#)

外部データベース接続の追加

IM and Presence Service から常設チャットの外部データベースへの接続を設定します。IM and Presence サービスのクラスタ間全体には、少なくとも 1 つの一意の論理外部データベース インスタンス (テーブルスペース) が必要です。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**メッセージング > 外部サーバの設定 > 外部データベース**を選択します。
 - Step 2** **[新規追加]** をクリックします。
 - Step 3** **データベース名** フィールドに、データベースの名前を入力します。
 - Step 4** **データベース タイプ** ドロップダウンから、導入する外部データベースのタイプを選択します。
 - Step 5** データベースの **ユーザ名** および **パスワード情報** を入力します。
 - Step 6** **ホスト名** フィールドにホストの DNS ホスト名または IP アドレスを入力します。
 - Step 7** **外部データベースの設定** ウィンドウで残りの設定を入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
 - Step 8** **[保存 (Save)]** をクリックします。
 - Step 9** この手順を繰り返して、外部データベース インスタンスへの各接続を作成します。
-

常設チャット用の MSSQL データベースの Windows 認証

常設チャットの MSSQL 外部データベースの Windows 認証を有効にします。

Before you begin**Important** リリース 14SU2 以降でサポートされます。

外部データベース接続を構成するには、「[外部データベース接続の追加, on page 7](#)」を参照してください。

Procedure

	Command or Action	Purpose
Step 1	[データベースタイプ (Database Type)] ドロップダウンから、外部データベースのタイプを Microsoft SQL Server として選択します。	
Step 2	[Windows 認証を有効にする (Enable Windows Authentication)] チェックボックスをオンにします。	
Step 3	[ドメイン (Domain)] フィールドに、Windows ドメイン名を入力します。	
Step 4	Windows ユーザのユーザ名およびパスワード情報を入力します。	Note Windows 認証を使用すると、ドメインレベルで Windows グループを作成でき、グループ全体の MSSQL サーバにログインを作成できます。

グループチャットと持続チャットのインタラクションと制限

表 1: グループチャットと持続チャットのインタラクションと制限

機能の相互作用	制限事項
ルームの結合のアーカイブ	ルームの入退室をアーカイブすると、トラフィックが増加し、外部データベースサーバの領域が消費されるため、これを行うかどうかは任意です。

機能の相互作用	制限事項
匿名ルームでのチャット	Cisco Jabber 経由でチャットを展開する場合（グループチャットまたは持続チャットのいずれか）は、[グループチャットとパーシステントチャットの設定（Group Chat and Persistent Chat Settings）] ウィンドウで[デフォルトで、ルームは匿名です（Rooms are anonymous by default）] および [ルームのオーナーは、ルームを匿名にするかどうかを変更できます（Room owners can change whether or not rooms are anonymous）] オプションが選択されていないことを確認してください。いずれかのチェックボックスをオンにすると、チャットは失敗します。
データベース接続の問題	Text Conference Manager サービスが起動した後で外部データベースとの接続が失敗した場合、Text Conference Manager サービスはアクティブなままで動作を継続します。ただし、メッセージはデータベースに書き込まれなくなり、接続が回復するまで新しい永続的なルームを作成できません。
OVA 要件	<p>常設チャットまたはクラスタ間のピアリングを導入している場合、これらの機能が導入可能な OVA サイズは 5000 ユーザ OVA になります。最低でも 15000 ユーザ OVA の導入を推奨します。集中型展開では、ユーザベースの規模に応じて、25000 ユーザ OVA が必要になる場合があります。OVA オプションとユーザ容量の詳細については、以下のサイトを参照してください。</p> <p>(注) すべての IMP ノードに少なくとも 15000 ユーザ OVA を展開することを強く推奨します。</p> <p>https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-cisco-ucm-im-presence.html</p>
Microsoft SQL Server での常設チャットの文字数制限	メッセージ本文（HTML タグ+テキストメッセージを含む）が 4000 文字を超えるチャットメッセージは配信されません。こういったメッセージは拒否され、アーカイブされません。この問題は、Microsoft SQL Server をリリース 11.5 (1) SU3 を外部データベースとして使用した場合に発生します。詳細は、CSCvd89705 を参照してください。

機能の相互作用	制限事項
<p>ピアクラスタがサポートされていないリリースを実行している Jabber の常設チャット</p>	<p>Jabber モバイル用の常設チャットは、11.5 (1) SU5 で導入されています。それ以前の 11.5 (1) SU リリースではサポートされていません。この機能は、12.0 (1) または 12.0 (1) の SU1 においてもサポートされていません。</p> <p>Jabber の常設チャットは今回のリリースで導入されています。Jabber Mobile 用の常設チャットルームをサポートしていないピアクラスタを使用して、クラスタのトランクリングを設定している場合は、Jabber Mobile クライアントに対して以下の条件が適用されます。</p> <p>常設チャット ルームが、サポートされていないリリース (11.5 (1) など) でホストされている場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートされるクラスタをホームとする Jabber モバイルクライアントは、サポートされていないクラスタでホストされている常設チャットルームに参加することができます。ただし、ルームをミュートするオプションは提供されません。グローバルミュートオプションは表示されますが、機能しません。 サポートされていないピアクラスタをホームとする Jabber モバイルクライアントは、常設チャットルームに参加することができません。 <p>11.5 (1) SU5 など、常設チャットルームがサポートされるリリースでホストされている場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートされるクラスタをホームとする Jabber モバイルクライアントの参加者は、すべての常設チャットをモバイル機能に備えています。 サポートされないピアクラスタからの Jabber モバイルクライアントは、常設チャットルームに参加することができません。 <p>(注) 常設チャット用の検索機能は、IM 履歴が無効に設定されている Jabber 設定ファイル (<i>jabber-config.xml</i>) の場合は機能しません。</p>
<p>外部データベース接続および Cisco XCP Text Conferencing サービス</p>	<p>スプリットブレイン現象が発生すると、サブスクリバまたはパブリッシャがピア Text Conferencing サービスを検出するか、いずれかのノードがダウンした場合、サブスクリバまたはパブリッシャは、通常の状態からバックアップへの移行を試みます。</p> <p>この操作中に、ピア チャット ルームの読み込みで外部データベースへの接続に失敗した場合、Cisco XCP Text Conferencing サービスはシャットダウンします。</p>

機能の相互作用	制限事項
<p>ハイアベイラビリティが設定されている場合にサポートされる永続的なチャットルームの数</p>	<p>IM&P の導入でサポートされる永続的なチャットルームの最大数は、サブクラスタごとに5000です。</p> <p>ハイアベイラビリティが有効になっている場合は、ノードごとに最大2500のルームを作成することをお勧めします。(ただし、システムはノードごとに最大5000のルームを作成できます)。ハイアベイラビリティ展開のノードごとに2500人以上のルームが設定されている場合、フェールオーバー時には、バックアップノードでホストされる会議室が5000を超えることとなります。これにより、トラフィックの負荷に応じて予期しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。</p> <p>システム上の5000ルームの負荷は、室内の参加者の数、ルーム内のメッセージ交換の割合、およびメッセージのサイズによっても異なります。シスココラボレーションサイジングツールを使用して、永続的なチャット導入のための適切な OVA セットアップを確保します。コラボレーションサイジングツールの詳細については、次を参照してください。 https://cucst.cloudapps.cisco.com/landing</p> <p>サブクラスタ内の両方のノード間で会議室を均等に分散させることをお勧めします。また、IM&P クラスタに複数のサブクラスタがある場合は、すべてのサブクラスタ間で会議室のロードバランスを行うことをお勧めします。現在、IM&P には、ルームのロードバランスを自動的に行うメカニズムがありません。ルームのロードバランシングの責任は、ルームを作成するユーザにあります。ルームの作成時に、ユーザは、jabber 機能を使用して、ルームの作成時にランダムなノードを自動的に選択するようする必要があります。</p>

機能の相互作用	制限事項
アドホックチャットルームのプライベート化	<p>アドホックチャットルームはデフォルトでパブリックですが、メンバー用に設定できるのは次の設定のみです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] から、[メッセージング（Messaging）] > [グループチャットおよび常設チャット（Group Chat and Persistent Chat）] を選択します。 2. [Room are for members only by default] チェックボックスをオンにします。 3. [ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます（Room owners can change whether or not rooms are for members only）] チェックボックスをオフにします。 4. [他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレータのみです（Only moderators can invite people to members-only rooms）] チェックボックスをオフにします。 5. [保存（Save）] をクリックします。 6. Cisco XCP Text Conference サービスを再起動します。 <p>（注） IM and Presence でアドホックチャットルームをプライベートとして設定すると、常駐なチャットルームもプライベートになります。</p>

常設チャットの例（高可用性なし）

以下の2つの例は、常設チャットのハイ アベイラビリティが展開されていないクラスタ間のピアリングおよび常設チャットの機能を示しています。

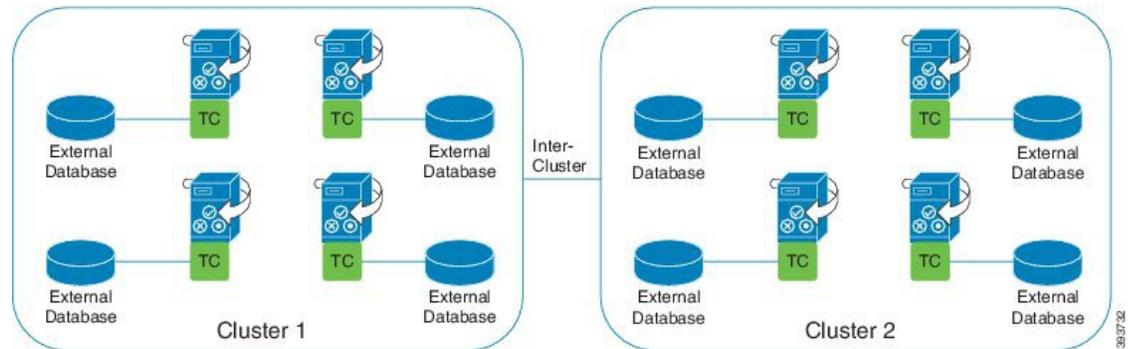


（注） 常設チャットを導入する場合は、常設チャットのハイ アベイラビリティを提供して、常設チャットルームに冗長性を追加することが推奨されます。

すべてのクラスタ間ノードで有効にされた常設チャット（ハイ アベイラビリティなし）

常設チャット（ハイ アベイラビリティなし）は、クラスタ ネットワーク内のすべてのノードで有効になっています。すべてのノードには、常設チャット用の外部データベースが関連付けられているため、すべてのノードで同一のチャットルームをホストすることができます。

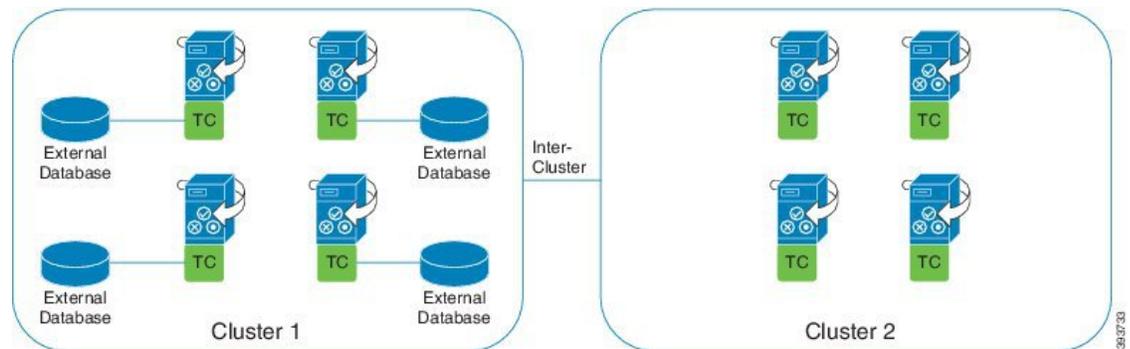
Cisco Text Conferencing サービスは、いずれかのクラスタ内のすべてのノード上で実行されています。これらのクラスタ内のすべてのユーザは、いずれかのクラスタのノードでホストされている常設チャットルームに参加することができます。



クラスタ間ネットワークの単一クラスタで有効にされた常設チャット（ハイアベイラビリティなし）

クラスタ 1 のノードのみの外部データベースを伴う常設チャット（ハイアベイラビリティなし）
 クラスタ 2 では、常設チャットルームをホスト用にノードが設定されていないため、外部データベースは必要ありません。

ただし、Cisco Text Conference Manager サービスはいずれかのクラスタ内のすべてのノード上で実行されるため、いずれかのクラスタ内のすべてのユーザは、クラスタ 1 でホストされる常設チャットルームに参加することができます。



IM and Presence での常設チャットの境界

ここでは、さまざまな依存関係を明確化する例を使用して、IM and Presence の永続的なチャット (PChat) 境界を表すマトリックスについて説明します。

永続的なチャットの境界を導出するために、次の前提が行われます。

1. エイリアス/サーバ/サブクラスタ/クラスタあたりのルーム数に関して、次のようになります。
 1. サーバには、複数のテキスト会議エイリアスが含まれている場合があります。

2. サブクラスタには、2つのサーバ(ノード)が含まれています。
 3. クラスタには、最大3つのサブクラスタを含めることができます。
2. 高可用性 (HA) が有効になっている場合、サポートされているすべての部屋番号は半減します。許可されている**常設チャットルームの最大数**の最大許容値は2500です。
 3. 例: 会議室ごとに100人のユーザが平均を想定している場合、IM and Presence サービスは以下をサポートできます。
 1. 3500 HA を使用しないサーバごとの永続的なチャットルーム
 2. 1750 HA を使用したサーバごとの永続的なチャットルーム。
 3. ルームごとに1つのメッセージを1分あたり、最大273の常設チャットルームをサーバごとにアクティブにすることができます。

次に、これらの依存関係を明確化する例をいくつか示します。

タイムスライスごとにサポートされる会議室は、次の式を使用してサポートされている会議室の合計数を犠牲にすることで増やすことができます。

新しい会議室数 = 現在サポートされている会議室数 * タイムスライスごとにサポートされる会議室の現在の数 (%) / タイムスライスごとにサポートされる新しいルーム数 (%)

表 2: 25K OVA 持続チャット容量テーブル (サーバごと)

ルームあたりの平均ユーザ数	サポートされている PChat ルームの数	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度=1/分	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度=3/分
2	5,000	100%	100 %
5	5,000	100%	58%
10	5,000	99%	33%
15	5,000	69%	23%
20	5,000	53%	18%
30	5,000	36%	12%
50	5,000	22%	7%
100	3497	16 %	5 %
200	2064	14 %	5 %
500	926	12%	4 %
1,000	482	12%	4 %



(注) ユーザの30% に2つのデバイス/クライアントがあることを前提としています。

25K OVA の例:

ルームあたりの平均ユーザー数 = 10

メッセージの頻度 = 3/分

サポートされている会議室の現在の数 = 5000

タイムスライスごとにサポートされる現在のルーム = 33%

タイムスライスごとにサポートされる新しいルーム = 50%

結果:

新しい会議室がサポートされています = $5000 * 33/50 = 3300$

表 3: 15,000 OVA 持続チャット容量テーブル (サーバあたり)

ルームあたりの平均 ユーザ数	サポートされている PChat ルームの数	タイムスライスごとに サポートされるルーム メッセージの頻度=1/分	タイムスライスごとに サポートされるルーム メッセージの頻度=3/分
2	5,000	100%	80 %
5	5,000	100%	41%
10	5,000	67%	22%
15	5,000	46%	15%
20	5,000	35%	12%
30	5,000	24%	8%
50	5,000	14 %	5 %
100	3497	10 %	3 %
200	2064	9%	3 %
500	926	8%	3 %
1,000	482	7 %	2 %



(注) これは、ユーザの 30% が 2 つのデバイス/クライアントを持っていることを前提としています。

15K OVA の例:

ルームあたりの平均ユーザ数 = 5

メッセージの頻度 = 3/分

サポートされている会議室の現在の数 = 5000

タイムスライスごとにサポートされる現在のルーム = 41%

タイムスライスごとにサポートされる新しいルーム = 50%

結果:

新しい会議室がサポートされています = $5000 * 41/50 = 4100$

表 4: 5K OVA 持続チャット容量テーブル (サーバごと)

ルームあたりの平均ユーザ数	サポートされている PChat ルームの数	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度=1/分	タイムスライスごとにサポートされるルーム メッセージの頻度=3/分
2	5,000	94%	31%
5	5,000	53%	18%
10	4654	33%	11%
15	4261	26%	9%
20	3929	21 %	7 %
30	3399	17%	6 %
50	2677	13 %	4 %
100	1748	10 %	3 %
200	1032	9%	3 %
500	463	8%	3 %
1,000	241	7 %	2 %



(注) これは、ユーザの 30% が 2 つのデバイス/クライアントを持っていることを前提としています。

5K OVA の例:

ルームあたりの平均ユーザ数 = 2

メッセージの頻度 = 3/分

サポートされている会議室の現在の数 = 5000

タイムスライスごとにサポートされる現在のルーム数 = 31%

タイムスライスごとにサポートされる新しいルーム = 50%

結果:

新しい会議室がサポートされています = $5000 * 31/50 = 3100$

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。